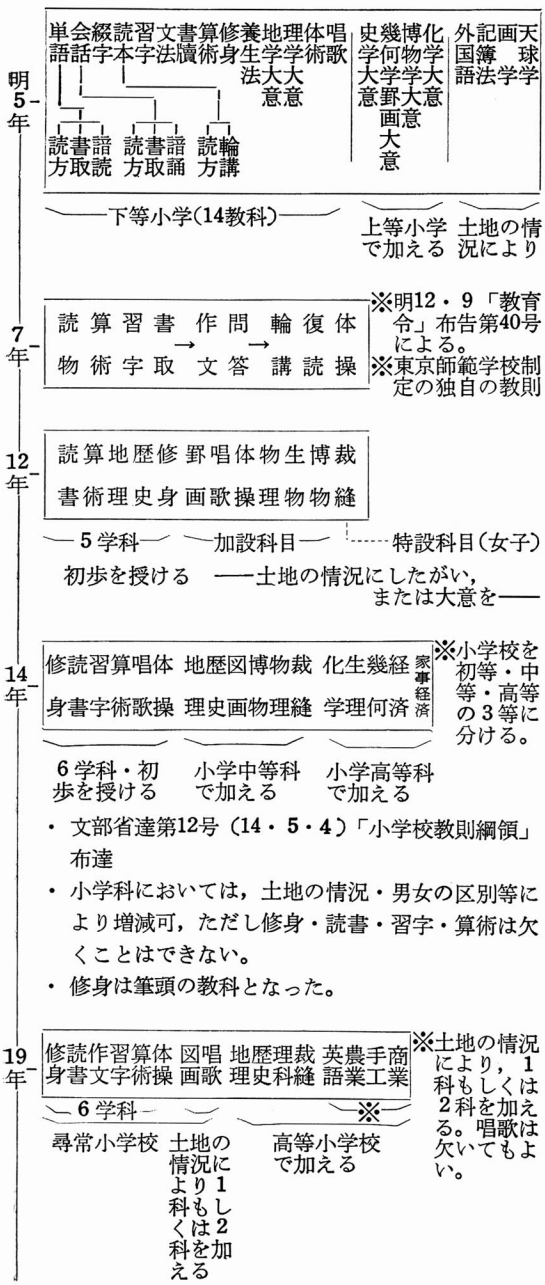
教育研究資料の紹介

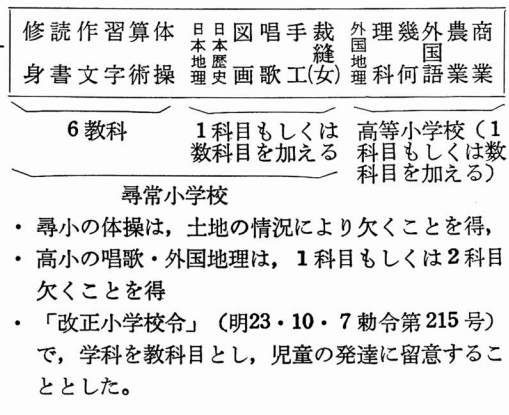
教科構造の変せん

研究・相談部　**松　崎　弘　道**

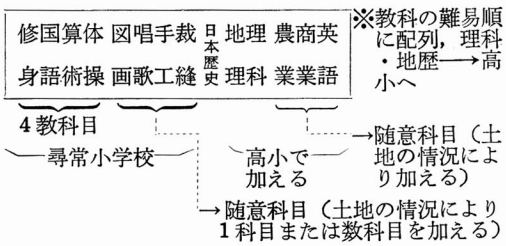
明治5年から昭和43年までの「教科」の構造を図示すると下記のようになる。



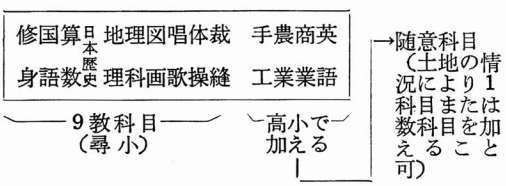
- 勅令第14号「小学校令」（明19・4・10）に基づく「小学校ノ学科及其程度」（明19・5・25省令第8号）
- 物理・博物を併合し「理科」とした。
- 作文を新しく加えた。



- 尋小の体操は，土地の情況により欠くことを得，
- 高小の唱歌・外国地理は，1科目もしくは2科目欠くことを得
- 「改正小学校令」（明23・10・7勅令第215号）で，学科を教科目とし，児童の発達に留意することとした。



- 勅令第344号による小学校令再改正（明33・8・20）
- 教科目に関する改正の要点は，読書・作文・習字を1科目に統合して国語とした。
- 日常生活に必須な教科目の教授に重点をおくことにより教授効果をあげると同時に，児童の心身の発育に応ずる教育をねらっている。
- 尋小の修業年限を4年，高小は2 or 3 or 4年。



- 小学校令施行規則改正（40・3・25）による。
- 手工は土地の情況により加える（尋小）。
- 数科目を加えた場合に，農・商併せて課すことはできない（高小）。
- 同年7月の改正により手工・農・商のうち1科目は必修，英語を加えることは廃止。実業に関する科目を重視する。
- 義務教育年限を延長し，尋小6年，高小は2年または3年となる。